NEC Express5800シリーズ Express5800/120Ra-2h

1 導入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

特 長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

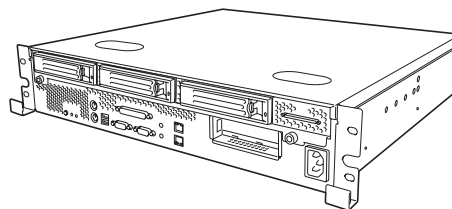
拡張性

- オプションスロット
  PCI 64bit/100MHzを1スロット（オプション）
- 最大16GBの大容量メモリ
- ネットワークポートを標準で2ポート装備
- リモートパワーオン機能

高信頼性

- メモリ監視機能（1ビットエラー訂正/2ビットエラー検出）
- メモリ/CPU縮退機能（障害を起こしたデバイスの論理的な切り離し）
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常通知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- ディスクアレイ
- オートリビルド機能（ホットスワップ対応）
- BIOSパスワード機能
- 本体遠隔監視機能

保守機能

- オフライン保守ユーティリティ
- HDDの前面保守が可能

高性能

- Intel® Xeon® Processor搭載
  - N8100-1226Y: 3.0GHz/2MB Cache
  - N8100-1232Y: 2.8GHz/1MB Cache
- 高速メモリアクセス
- 高速ネットワークインタフェース
- 高速ディスクアクセス

豊富な機能搭載

- グラフィックスアクセラレータ「RADEON7000」採用
- POWERスイッチマスク
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- コンソールレス機能

自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ

すぐに使える

BTO（工場組み込み出荷）によりあらかじめ使用するOSのインストールやオプションの取り付けを指定できます。

本装置は、高い信頼性を確保するためのさまざまな機能を提供しています。
本体に添付されているESMPROなどのソフトウェアが提供する監視機能との連携により、システムの障害を未然に防止、または早期に復旧することができます。
また、停電などの電源障害からサーバを守る無停電電源装置、万一のデータ損失に備えるためのバックアップ装置などといった各種オプション製品により、さらなる信頼性を確保することができます。
各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
サーバ管理	サーバ本体機能	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ストレージ管理 ● ディスク管理	・ハードウェア全般	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
	・本体標準装備のディスクアレイコントローラ (Adaptec HostRAID™)	Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition
	・ディスクアレイコントローラ *	Power Console Plus
● バックアップ管理	DAT/AIT など*1	Windows 標準バックアップツール ARCserve for Windows NT*1 BackupExec*、NetBackup*1
電源管理	無停電電源装置（UPS）*1	ESMPRO/UPSController*1 PowerChute Business Edition*1 （注） 無停電電源装置により、使用するソフトウェアが異なります。
ネットワーク管理	100BASE-TX 接続ボードなど *1	WebSAM/Netvisor*1
リモート管理	リモートマネージメントカード	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent DianaScope

*1 オプション製品。

サーバ管理

本体のハードウェアの状態を管理するために「ESMPRO/ServerAgent」をインストールしてください。「ESMPRO/ServerAgent」は本体の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時「ESMPRO/ServerManager」と連携してただちに管理者へ通報します。
ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下記の表のとおりです。

機能名		可否	機能概要
ハードウェア		○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
	メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
	装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
	CPU	○	CPU の物理的な情報を表示する機能です。
システム		○	CPU の論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/O デバイス		○	I/O デバイス(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ)の情報参照をする機能です。
システム環境		△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
	温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
	ファン	○	ファンを監視する機能です。
	電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
	電源	○	電源ユニットを監視する機能です。
	ドア	X	Chassis Intrusion（筐体のカバー / ドアの開閉）を監視する機能です。
ソフトウェア		○	サービス、ドライバ、OS の情報を参照する機能です。
ネットワーク		○	ネットワーク (LAN) に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス		X	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS		○	BIOS の情報を参照する機能です。
ローカルポーリング		○	ESMPRO/ServerAgent が取得する任意の MIB 項目の値を監視する機能です。
ストレージ		○	ハードディスクドライブなどのストレージ機器やコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム		○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ		○	LSI Logic 社製および Promise 社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。
その他		○	Watch Dog Timer による OS ストール監視をする機能です。
		○	OS STOP エラー発生後の通報処理を行う機能です。

○: サポート　△: 一部サポート　X: 未サポート

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgent、DianaScopeは本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

- **ディスク管理**

  ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。本体標準装備、またはオプションのRAIDコントローラ（ディスクミラーリングコントローラまたはディスクアレイコントローラ）を使用することにより、ディスクドライブをグループ化して冗長性を高め、データの損失を防ぐことができます。

  － 本体標準装備

  本体のマザーボードには、SCSIハードディスクドライブを接続することができるチャネルを持っています。また、このチャネルを制御するコントローラによってRAIDドライブを構築することができます。コントローラがサポートしているRAIDレベルはRAID0とRAID1です。
  コントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「SCSI*Select*」を使用します。詳しくは「ハードウェア編」を参照してください。
  運用中の管理・保守は「Adaptec Storage Manager™」を使用します。使用方法については「ソフトウェア編」、またはオンラインドキュメントを参照してください。

  － ディスクアレイコントローラの場合

  ディスクアレイコントローラは、SCSIハードディスクドライブを使ったディスクアレイを構築するためのPCIボードです。

  ディスクアレイのRAID0、1、5の各RAIDレベルをサポートしています。

  ディスクアレイコントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「MegaRAID Configuration Utility」を使用します。詳しくは、ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してください。

  運用中の管理・保守はWindowsベースのユーティリティ「Power Console Plus」を使用します。

  このソフトウェアは、それぞれのディスクアレイコントローラの管理・監視をするとともに、ESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgentとの連携により、ディスクアレイの状況をトータルに監視し、障害の早期発見や予防措置を行い、ハードディスクドライブの障害に対して迅速に対処することができます。

  ディスクアレイの設定は、セットアップツール「シームレスセットアップ」でも設定できます。より詳細な設定をするときに、ボードのチップに搭載されているコンフィグレーションユーティリティを使用してください。

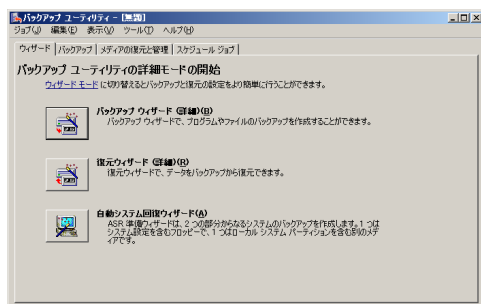
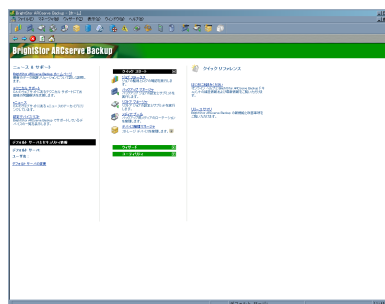
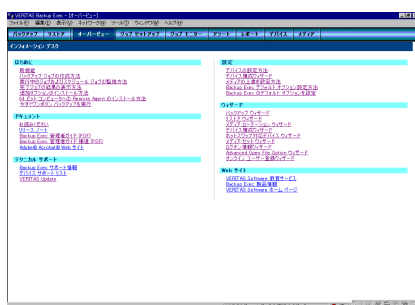
Power Console Plusや、Adaptec Storage Manager™、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentは本体に標準で添付されています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ディスクアレイ コントローラの機能	機能の概要
レベル	RAID0、1、5 の各 RAID レベルをサポート
ホットプラグ	システムが稼働している状態でハードディスクドライブなどのデバイスを交換することができます。
オートリビルド	故障したハードディスクドライブを新品のハードディスクドライブに交換した後、残りのハードディスクドライブのデータから故障したハードディスクドライブが持っていたデータを自動的に復元します。
エキスパンドキャパシティ	稼働中のシステムを停止することなくハードディスクドライブの増設をすることにより、ディスクアレイの使用可能領域や論理ドライブを自動的に拡張します。

● **バックアップ管理**

定期的なバックアップは、不意のサーバのダウンに備える最も基本的な対応です。

DAT装置やDLT装置と各種ソフトウェアを使って定期的にバックアップをとってください。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

アプリケーション名	説　明
NTBackup(OS 標準)	Windows 標準のバックアップツール。 単体バックアップ装置に単純なバックアップを行うときに使用。
ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)	国内で最もポピュラーな PC サーバのバックアップツール。 スケジュール運用が可能で、集合バックアップ装置、DB オンラインバックアップなどに対応可能。
BackupExec(ベリタス社)	米国で最もポピュラーな PC サーバのバックアップツール。 NTBackup と同一テープフォーマットを使用。 スケジュール運用が可能で、集合バックアップ装置、DB オンラインバックアップなどに対応可能。
NetBackup(ベリタス社)	異種プラットフォーム環境で統合的な制御 / 管理を実現した、BackupExec の上位バックアップツール。基幹業務など大規模システムまで対応。オープンファイルバックアップ、Disaster Recovery を標準サポート。DB オンラインバックアップなどに対応可能。

NTBackup

ARCserve

BackupExec

NetBackup

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。
停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。
無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。
本製品では、APC社製Smart-UPSの無停電電源装置を提供しており、PowerChute Business Editionで管理・制御します。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、本体に内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。
また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

リモート管理

リモートマネージメントカード(N8115-01)相当が搭載されています。ユーティリティのDianaScopeを使用することにより、LANを介した本体のリモート監視や管理をすることができます。
リモートマネージメントカードが提供する管理機能は以下のとおりです。

- 電源ユニットの監視
- 温度/電圧/FANの監視
- ハードウェア障害のシステムイベントログ(SEL)生成機能
- ウォッチドッグタイマによるOSストール監視
- OSストップエラー発生後の通報処理
- DianaScopeによるLAN経由でのリモート制御（本体装置のリセット、電源ON/OFF、システムイベントログ(SEL)の確認など）

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

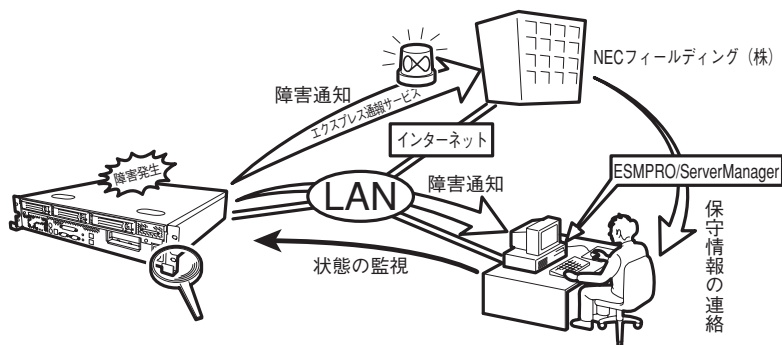
システム構築のポイント

実際にセットアップを始める前に、以下の点を考慮してシステムを構築してください。

運用方法の検討

「特長」での説明のとおり、本装置は運用管理・信頼性に関する多くのハードウェア機能を持ち、用途に応じてさまざまなソフトウェアが添付されています。
システムのライフサイクルの様々な局面において、「各ハードウェア機能および添付ソフトウェアのどれを使用して、どのような運用するか?」などを検討し、それに合わせて必要なハードウェアおよびソフトウェアのインストール/設定を行ってください。

稼動状況・障害の監視、および保守

本体に標準添付の「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用することにより、リモートからサーバの稼動状況や障害の監視を行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に迅速に対応することができます。
運用の際は、「ESMPRO/ServerManager」、「ESMPRO/ServerAgent」を利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

なお、本装置に障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラート通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。
「エクスプレス通報サービス」を利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認してください。

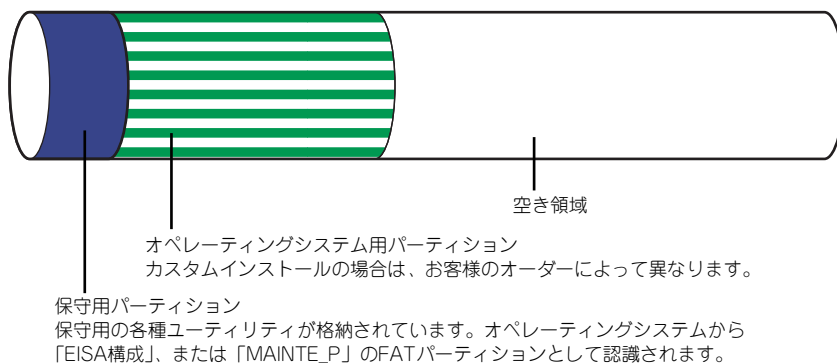
- **オペレーティングシステムのインストール状態について**

注文により出荷時の状態に次の2種類があります。

出荷時のモデル	説　明
カスタムインストール	BTO(工場組み込み出荷)にてWindows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003のインストールを指定された場合。
未インストール	BTO(工場組み込み出荷)によるOSのインストールを希望されなかった場合。

出荷時のオペレーティングシステムのインストール状態により、必要なセットアップ作業が異なります。17ページの説明に従ってセットアップを行ってください。

- **パーティション構成について**

本装置では、セットアップすると1台目のディスクの先頭に保守用の領域（保守用パーティション）が自動的に作成されます。

セットアップの手順を確認しましょう

システムを構築するにあたり、「セットアップ」は必要不可欠なポイントです。
セットアップを始める前にセットアップをどのような順序で進めるべきか十分に検討してください。
必要のない手順を含めたり、必要な手順を省いたりすると、システムの構築スケジュールを狂わせるばかりでなく、本装置が提供するシステム全体の安定した運用と機能を十分に発揮できなくなります。

- **<その1>　運用方針と障害対策の検討**

  ハードウェアが提供する機能や採用するオペレーティングシステムによって運用方針やセキュリティ、障害への対策方法が異なります。

  「特長（2ページ）」に示す本装置が提供する機能を十分に利用したシステムを構築できるよう検討してください。

  また、システムの構築にあたり、ご契約の保守サービス会社および弊社営業担当にご相談されることもひとつの手だてです。

- **<その2>　ハードウェアのセットアップ**

  本体の電源をONにできるまでのセットアップを確実に行います。この後の「システムのセットアップ」を始めるために運用時と同じ状態にセットアップしてください。詳しくは、17ページに示す手順に従ってください。

  ハードウェアのセットアップには、オプションの取り付けや設置、周辺機器の接続に加えて、内部的なパラメータのセットアップも含まれます。ご使用になる環境に合わせたパラメータの設定はオペレーティングシステムや管理用ソフトウェアと連携した機能を利用するために大切な手順のひとつです。

- **<その3>　システムのセットアップ**

  オプションの取り付けやBIOSの設定といったハードウェアのセットアップが終わったら、ハードディスクドライブのパーティションの設定やディスクアレイの設定、オペレーティングシステムや管理用ソフトウェアのインストールに進みます。

  － 初めてのセットアップの場合

    初めてのセットアップでは、お客様が注文の際に指定されたインストールの状態によってセットアップの方法が異なります。

    「カスタムインストール」を指定して購入された場合は、本体の電源をONにすれば自動的にセットアップが始まります。セットアップの途中で表示される画面のメッセージに従って必要事項を入力していけばセットアップは完了します。

    「未インストール」にて購入された場合は、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMが提供する自動セットアップユーティリティ「シームレスセットアップ」を使用します。シームレスセットアップでは、はじめにセットアップに必要な情報を選択・入力するだけであとの作業はシームレス（切れ目なく）で自動的に行われます。

  － 未インストールのセットアップ・再セットアップの場合

    シームレスセットアップを使用してください。煩雑な作業をシームレスセットアップが代わりに行います。

本装置がサポートしているOSは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
（以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
（以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2 Standard Edition 日本語版
（以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2 Enterprise Edition 日本語版
（以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition 日本語版
（以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ）
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition 日本語版
（以降、「Windows Server 2003」と呼ぶ）

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

「Windows Server 2003」では、ディスクアレイの設定から管理用ソフトウェアのインストールまでの作業をシームレスセットアップが行います。

本装置固有のセットアップは（OSを除く）、シームレスセットアップが代わりに行います。セットアップでは、シームレスセットアップを利用することをお勧めします。

Windows Server 2003 x64 Editions ではシームレスセットアップは使用できません。「Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition/Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

- **<その4>　障害処理のためのセットアップ**

  障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows Server 2003 x64 EditionsまたはWindows Server 2003に関しては、本書で説明しています。

- **<その5>　管理用ソフトウェアのインストールとセットアップ**

  インストールが完了したソフトウェア（BTOで出荷時に組み込まれたものを含む）の各種パラメータを、使用するハードウェア/ネットワーク環境へ合うように設定します。また、本装置と同じネットワーク上へ管理PC（一般的なPCが使用可）を定義し、管理・監視用のソフトウェアをインストールします。詳しくは「ソフトウェア編」をご覧ください。

- **<その6>　システム情報のバックアップ**

  保守ユーティリティ「オフライン保守ユーティリティ」を使ってマザーボード上の装置固有情報をバックアップします。マザーボードが故障した場合、ボード交換後、この情報をリストアすることによって交換以前と同じ状態にすることができます。詳しくは57ページをご覧ください。

各運用管理機能を利用するにあたって

本装置で障害監視などの運用管理を行うには、標準添付のESMPRO/ServerAgent、およびESMPRO/ServerManager、または別売の同ソフトウェアが必要となります。この後で説明するセットアップ手順、またはソフトウェアの説明書（別売の場合）に従って各ソフトウェアのインストール、および必要な設定を行ってください。

各運用管理機能を利用する際には、以下の点にご注意ください。

- **サーバ管理機能を利用するにあたって**
  - CPU/メモリ縮退機能を利用する場合やCPUやメモリを交換した場合は、BIOSのコンフィグレーションが必要です。「システムBIOS（114ページ）」を参照して「Processor Settings」や「Memory Configuration」、「Advanced」の各項目を設定してください。
  - 装置の各コンポーネント（CPU/メモリ/ディスク/ファン）の使用状況の監視やオペレーティングシステムのストール監視など、監視項目によってはESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentでしきい値などの設定が必要になります。詳細は、各ソフトウェアに関する説明やオンラインヘルプなどを参照してください。
- **ストレージ管理機能を利用するにあたって**
  - 標準装備Adaptec HostRAID™を使用する場合

    Adaptec Storage ManagerTMをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Adaptec Storage Manager™」の説明に従って対応する管理ユーティリティをインストールしてください。ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、アレイディスクの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします。設定方法については関連する管理ユーティリティのドキュメントを参照してください。
  - ディスクアレイコントローラを使用する場合

    Power Console Plusをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Power Console Plus(サーバ)」の説明に従ってPower Console Plus（サーバ）をインストールしてください。
    ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、アレイディスクの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします（オンラインドキュメント「Power Console Plusユーザーズガイド」の「定期的な整合性チェックの実施」を参照してください）。
  - バックアップファイルシステムを使用する場合

    テープバックアップ装置を使用する場合は、クリーニングテープを使って定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。ヘッドの汚れはデータの読み書きエラーの原因となり、データを正しくバックアップ/リストアできなくなります。テープドライブやテープの状態を監視する「テープ監視ツール」を使用することをお勧めします。テープ監視ツールについては「ソフトウェア編」を参照してください。

- **電源管理機能を利用するにあたって**
  - 無停電電源装置（UPS）を利用するには、専用の制御用ソフトウェア（ESMPRO/UPSController、PowerChute Business Edition、PowerChute *plus*）または、オペレーティングシステム標準のUPSサービスのセットアップが必要です。
  - 無停電電源装置（UPS）を利用する場合、自動運転や停電回復時のサーバの自動起動などを行うにはBIOSの設定が必要です。「システムBIOSのセットアップ（114ページ)」を参照して、「Server」メニューにある「AC LINK」の設定をご使用になる環境に合った設定に変更してください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。

「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップを始める前に

セットアップの順序と参照するページを説明します。セットアップはハードウェアから始めます。

BTO(工場組み込み出荷)にてWindowsのインストールを指定した場合は、本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたラベルが貼り付けられています。

プロダクトキーはOSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう取り扱いにご注意ください。もし剥がれて紛失したり汚れて見えなくなった場合でも、ラベルの再発行はできませんので、あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒にメモを保管されることをお勧めします。

EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしているオプションボードは、以下になります。もし、下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボード添付のマニュアルと「応用セットアップ」（58ページ）を参照してセットアップしてください。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

- **EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているボード**
  - SCSI HostRAID (マザーボード上のコントローラを使用)
- **その他のオプション**
  - N8103-80 ディスクアレイコントローラ(SCSI 1ch)

Windows Server 2003の場合

- **EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているボード**
  - SCSI HostRAID (マザーボード上のコントローラを使用)
- **その他のオプション**
  - N8103-80 ディスクアレイコントローラ(SCSI 1ch)

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. 別途購入したオプションを取り付ける（→87ページ）。

Windows Server 2003/Windows 2000をお使いの環境で次のオプションを増設した場合は、OSの起動後に次の操作を行ってください。

- DIMMを増設した場合は「ページングファイルサイズ」を設定し直してください。

  詳しくは32ページ（Windows Server 2003）を参照してください。

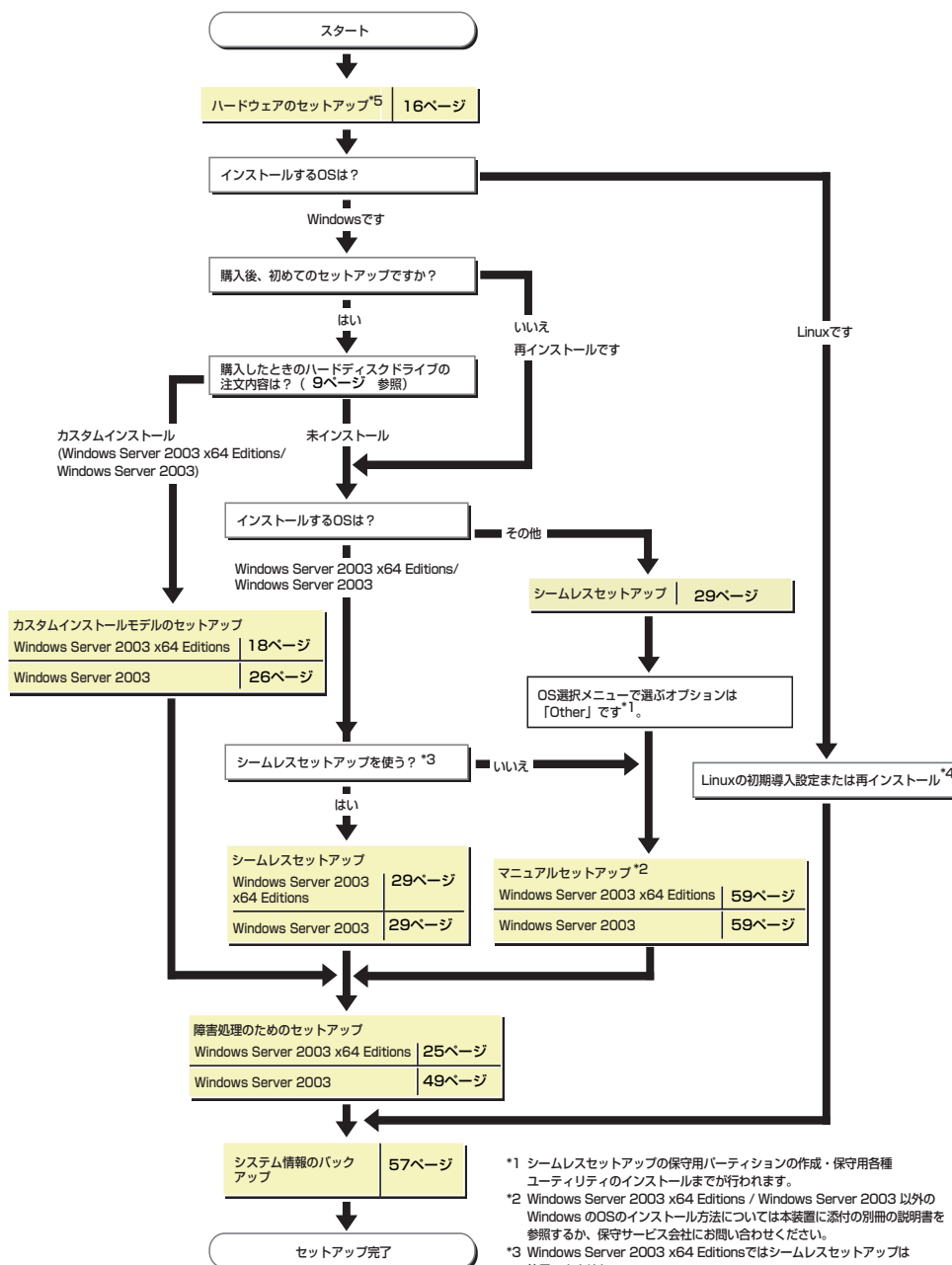
- 本装置を1CPUから2CPUに増設した場合は、デバイスマネージャの「コンピュータ」のドライバ「ACPIマルチプロセッサPC」に変更し、画面に従って再起動後、システムのアップデート（56ページ）を行ってください。

2. 本体に最も適した場所に設置する（→71ページ）。
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードなどの周辺装置を本体に接続する（→80ページ）。
4. 添付の電源コードを本体と電源コンセントに接続する（→80ページ）。
5. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

   114ページを参照してください。

BIOSのパラメータで時刻や日付の設定が正しく設定されているか必ず確認してください。

オペレーティングシステムのセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了したら、お使いになるオペレーティングシステムに合わせて後述の説明を参照してください。再インストールの際にも参照してください。

*1 シームレスセットアップの保守用パーティションの作成・保守用各種ユーティリティのインストールまでが行われます。
*2 Windows Server 2003 x64 Editions / Windows Server 2003 以外のWindows のOSのインストール方法については本装置に添付の別冊の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。
*3 Windows Server 2003 x64 Editionsではシームレスセットアップは使用できません。
*4 Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書を参照してください。
*5 Linuxの場合は、Express5800/Linuxインストール代行サービス説明書も参照してください。

Windows Server 2003 x64 Editions のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows Server 2003 x64 Editionsやシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

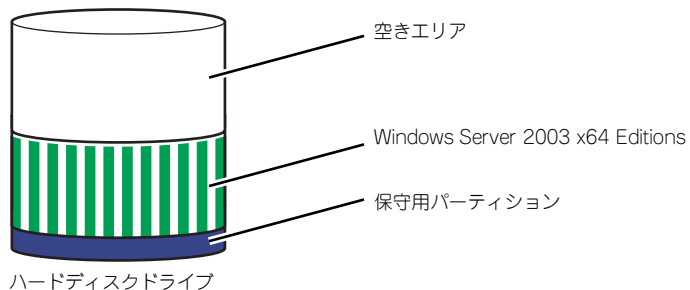
カスタムインストールモデルのセットアップ

「BTO（工場組み込み出荷）」で「カスタムインストール」を指定して購入された本体のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された製品で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。
再セットアップをする場合は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Windows Server 2003 R2 x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」の「マニュアルセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　（購入時の状態について）

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成（ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む）やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー（ビルド・トゥ・オーダー）によって異なります。
下図は、ハードディスクドライブのパーティション構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

1. **周辺装置、本体の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。**

   しばらくすると、[Windows セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリックしてセットアップを進めてください。

   - [ライセンス契約](使用許諾契約)画面では、使用許諾契約の内容を確認してください。
   - [ソフトウェアの個人用設定]画面では、名前や会社名または組織名を入力します。
   - [ライセンスモード]画面では、使用するライセンスモードを選択します。
   - [コンピュータ名とAdministratorのパスワード] 画面では、コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力してください。
   - [日付と時刻の設定]画面では、日付と時刻を正しく設定してください。
   - [ネットワークの設定]画面では、ネットワークの設定を選択します。
   - [ワークグループまたはドメイン名]画面では、ドメインに参加させるか選択します。

   システムが再起動します。

2. **20ページの「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ」を参照して、ネットワークドライバの詳細設定をする。**

3. **オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。**

4. **49ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。**

5. **出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。**

   インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

   - ESMPRO/ServerAgent
   - エクスプレス通報サービス*
   - Adaptec Storage Manager*
   - Power Console Plus*
   - ESMPRO/UPSController(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*
   - PowerChute *plus*(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*

   上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

6. **57ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。**

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「マニュアルセットアップ」を使ってください。
「マニュアルセットアップ」は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Windows Server 2003 R2 x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

- **PROSet**

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. **「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。**
2. **エクスプローラを起動する。**

   ＜標準のスタートメニューモードの手順＞

   スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

   ＜クラシックスタートメニューモードの手順＞

   スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

3. **「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS4¥PROSET¥WS3XPX64」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。**

   [Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

4. **[次へ]をクリックする。**
5. **[使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。**
6. **[すべて]を選択して[次へ]をクリックする。**
7. **[インストール]をクリックする。**

   [InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

8. **[完了]をクリックする。**

9. システムを再起動する。

以上で完了です。

- **アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ**

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

   チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。
   両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。
9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

   実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。

アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN(同一セグメント)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

マザーボードまたはオプションのネットワークボードを交換する場合、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

- **ネットワークドライバ**

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレスの設定を行ってください。

[PROSetがインストールされていない場合]

1. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

(2) [ローカル接続]アイコン (Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

[PROSetがインストールされている場合]

1. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続] →[ローカルエリア接続(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

(1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

(2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. **[構成]をクリックする。**

[Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

3. **[リンク]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。**

4. **[Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。**

以上で完了です。

- **オプションのネットワークのドライバ**

オプションのネットワークボード（N8104-88/115）を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

1. **デバイスマネージャを起動する。**

2. **[ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/100～]または[Intel(R) PRO/1000～]をダブルクリックする。**

[Intel(R) PRO/100～]または[Intel(R) PRO/1000～]ダイアログボックスが表示されます。

[？その他のデバイス]→[？イーサネットコントローラ]がある場合は[？イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。

3. **[ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。

4. **[一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、[次へ]をクリックする。**

5. **[次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、**

「N8104-88」の場合、
[<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS4¥PRO100¥WS3XPX64]
「N8104-115」のボード名ドライバの場合、
[<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS4¥PRO1000¥WS3XPX64]

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

6. **[完了]をクリックする。**

以上で完了です。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ**

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

<再インストール手順>

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットし、スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
2. 「<DVD-ROMのドライブレター >:¥WINNT¥W2K3AMD¥VIDEO」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

   N8115-02 アドバンスドリモートマネージメントカードを装着してのリモートKVM コンソールの利用を標準でサポートしています。専用ドライバをインストールする必要はありません。

3. メッセージに従って、作業を進める。

   ドライバのインストールが開始されます。

   途中、「ディジタル署名が見つかりませんでした。...」とのメッセージが表示される場合は、[はい]をクリックしインストールを続けてください。

4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する 。

- **ディスクアレイコントローラ(N8103-80)を追加接続する場合**

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-80)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。

以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. [スタートメニュー]－[コントロールパネル]－[管理ツール]－[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. SCSIとRAIDコントローラの「LSI Logic Megaraid SCSI 320-1」をダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。
6. フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

以上で完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときに障害からより早く、確実に復旧できるようセットアップをしてください。詳細な手順については49ページをご覧ください。

再セットアップ

Windows Server 2003 x64 Editionsの再セットアップをする場合は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Windows Server 2003 R2 x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」の「マニュアルセットアップ」を参照してください。

Windows Server 2003のセットアップ

ハードウェアのセットアップを完了してから、Windows Server 2003やシステムのセットアップをします。再インストールの際にも参照してください。

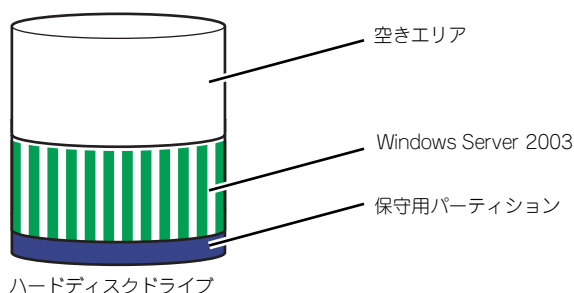
カスタムインストールモデルのセットアップ

「BTO(工場組み込み出荷)」で「カスタムインストール」を指定して購入された本体のハードディスクドライブは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、本装置が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

ここで説明する手順は、「カスタムインストール」を指定して購入された製品で初めて電源をONにするときのセットアップの方法について説明しています。再セットアップをする場合や、その他の出荷状態のセットアップをする場合は、「シームレスセットアップ」を参照してください。

セットアップをはじめる前に　(購入時の状態について)

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本体のハードウェア構成(ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む)やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。
下図は、ハードディスクドライブのパーティション構成について図解しています。

セットアップの手順

次の手順で本体を起動して、セットアップをします。

Windows Server 2003 の場合

1. **周辺装置、本体の順に電源をONにし、そのままWindowsを起動する。**

   しばらくすると、[Windows Server 2003セットアップ] 画面が表示されます。以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、[次へ]をクリックしてセットアップを進めてください。

   － [ライセンス契約](使用許諾契約)画面では、使用許諾契約の内容を確認してください。
   － [ソフトウェアの個人用設定]画面では、名前や会社名または組織名を入力します。
   － [ライセンスモード]画面では、使用するライセンスモードを選択します。
   － [コンピュータ名とAdministratorのパスワード] 画面では、コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力してください。
   － [日付と時刻の設定]画面では、日付と時刻を正しく設定してください。
   － [ネットワークの設定]画面では、ネットワークの設定を選択します。
   － [ワークグループまたはドメイン名]画面では、ドメインに参加させるか選択します。

   システムが再起動します。

2. **42ページの手順20以降を参照して、ネットワークドライバの詳細設定をする。**
3. **オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、ドライバをインストールする。**
4. **49ページを参照して障害処理のためのセットアップをする。**
5. **出荷時にインストール済みのソフトウェアの設定およびその確認をする。**

   インストール済みのソフトウェアはお客様が購入時に指定したものがインストールされています。例として次のようなソフトウェアがあります。

   － ESMPRO/ServerAgent
   － エクスプレス通報サービス*
   － Adaptec Storage Manager*
   － Power Console Plus*
   － ESMPRO/UPSController（本ソフトウェアを購入された場合のみ）*
   － PowerChute *plus*（本ソフトウェアを購入された場合のみ）*

   上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「本体用バンドルソフトウェア」を参照して使用環境に合った状態に設定してください。

カスタムセットアップで出荷された場合、インストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。本体にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、本体に添付の「Windows Server 2003 RURx対応（Service Pack x）インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールを行ってください。
サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認してください。

[8番街] http://nec8.com/

6. 57ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でカスタムインストールで購入された製品での初めてのセットアップは終了です。再セットアップをする際は「シームレスセットアップ」を使ってください。

シームレスセットアップ

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップをします。

「シームレスセットアップ」は、RAID の設定から、オペレーティングシステム（Windows Server 2003）、各種ユーティリティのインストールまでを切れ目なく（シームレスで）セットアップできる方法です。
ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション構成で使用する場合や、OSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

Windows Server 2003 x64 Editions では、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition / Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、58ページの「応用セットアップ」で説明しています。

- シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、58ページの「応用セットアップ」で説明しています。
- シームレスセットアップでは、あらかじめ作成したパラメータファイルを使用したり、セットアップ中に設定したパラメータをパラメータファイルとしてフロッピーディスク（別途1.44MBフォーマット済み空きフロッピーディスクをご用意ください）に保存することができます。
- パラメータファイルはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。
  ExpressPicnicを使ったパラメータファイルの作成方法については、185ページを参照してください。
- シームレスセットアップでは、「保守用パーティション」と呼ばれる約55MBの保守用の領域をハードディスクドライブの先頭に確保します。
  このパーティションを確保したくないときは、マニュアルセットアップ(59ページ参照)でインストールしてください。
- セットアップパラメータFDはお客様でご用意ください。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

Windowsファミリについて

Windows2003ファミリのうち、シームレスセットアップでインストール可能なエディションは次のとおりです。

- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2 Standard Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server™ 2003 R2 Enterprise Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Standard Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server™ 2003 Enterprise Edition 日本語版

以降「Windows Server 2003」と呼びます。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

Windows Server 2003 x64 Editions では、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition / Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「マニュアルセットアップ」を使用してください。

BIOSの設定について

Windows Server 2003をインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。114ページを参照して設定してください。

Windows Server 2003について

Windows Server 2003は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。

- **インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。**
- **弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。**
- **シームレスセットアップを完了した後に49ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。**

- **ミラー化されているボリュームへのインストールについて**

  [ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

  ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

- **MO装置の接続について**

  インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

- **DAT等のメディアについて**

  シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

- **ハードディスクドライブの接続について**

  OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。また、論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(61ページ)を参照してください。

● **作成するパーティションサイズについて**

[Windows Server 2003の場合]

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ ＋ ページングファイルサイズ ＋ ダンプファイルサイズ ＋ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	＝ 2900MB (Windows Server 2003(サービスパック含まない)のみ) ＝ 3500MB (Windows Server 2003 with ServicePack 1) ＝ 4400MB (Windows Server 2003 + サービスパック CD-ROM)
ページングファイルサイズ（推奨）	＝ 搭載メモリサイズ× 1.5
ダンプファイルサイズ	＝ 搭載メモリサイズ+ 12MB
アプリケーションサイズ	＝ 任意

重要

- **上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。**
  ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。
  また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- **1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。**
- **搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。**
- **その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。**

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

2900MB ＋ (512MB × 1.5) ＋ 512MB ＋ 12MB ＋ アプリケーションサイズ
＝ 4192MB ＋ アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. **「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。**
2. **「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。**

   ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

- **ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて**

  ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

  既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 インストレーションサプリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

  インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

- **ディスク構成について（「EISA構成」と表示されている領域について）**

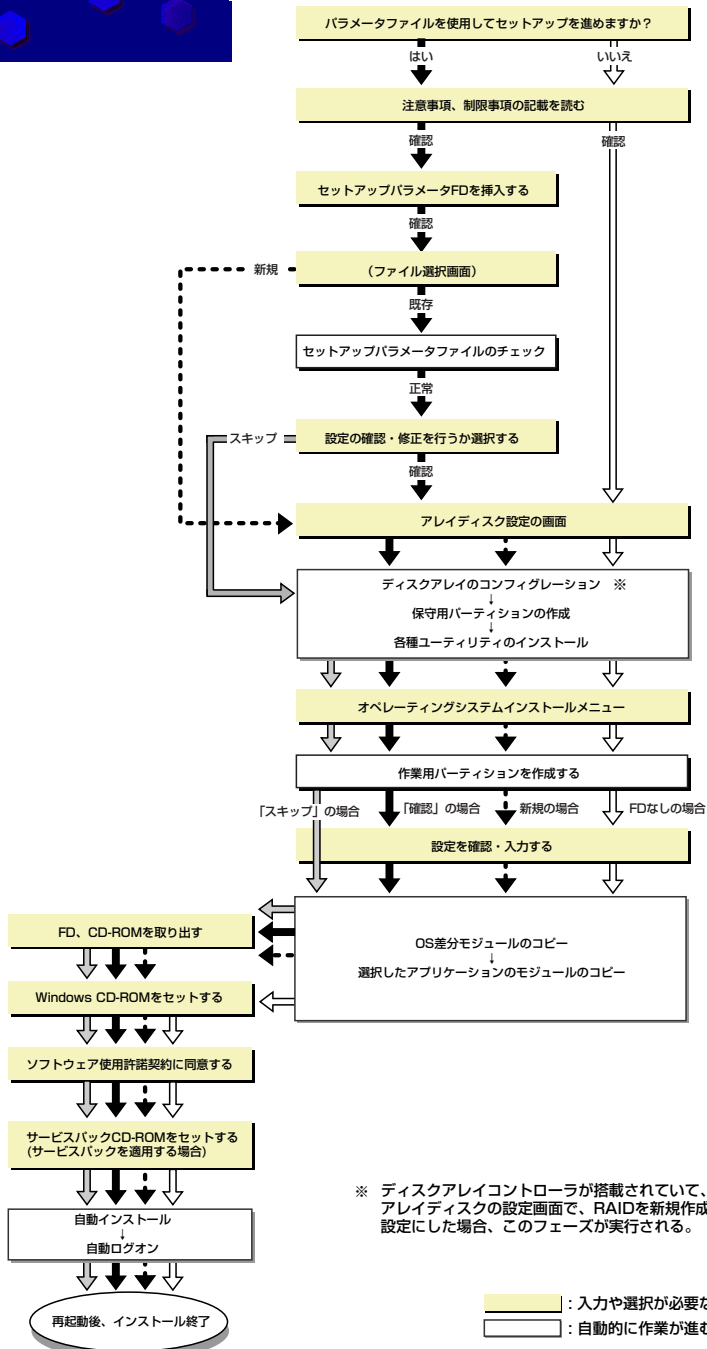
  ディスク領域に「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

- **サービスパックの適用について**

  Express5800 シリーズでは、サービスパックを適用することができます。
  本体に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめたうえで使用してください。

  【8番街】http://nec8.com/

セットアップの流れ

シームレスセットアップは、次のような流れで進みます。

セットアップの手順

シームレスセットアップでは、ウィザード形式により各パラメータを設定していきます。このとき、各パラメータを一つのファイル（パラメータファイル）としてフロッピーディスクへ保存することも可能です。

パラメータファイルを使ってセットアップするときは、ファイル保存用として1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクが1枚必要となります。あらかじめ、お客様でフロッピーをご用意ください。
再インストールするときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略することができます。
また、シームレスセットアップの中で、ディスクアレイコントローラなどのオプションに添付されたドライバFD（「大容量記憶装置用OEM-FD」）を個別に適用する場合は、パラメータファイルの設定も必要になります。このときも空きフロッピーディスクをご用意ください。

- **システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」（56ページ）を行ってください。**
- **Windows Server 2003の起動後にネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows Server 2003 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。**

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。

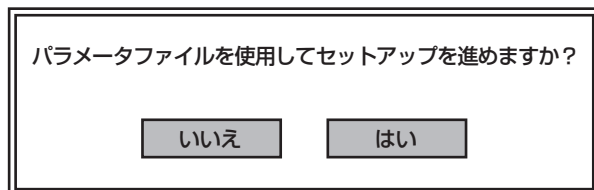
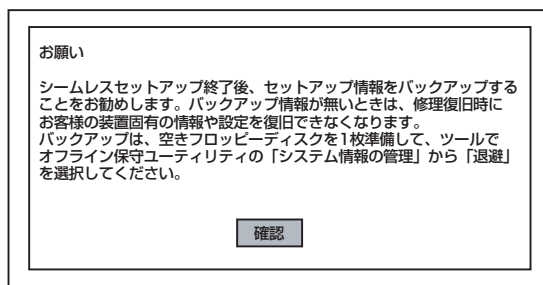
- OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
- OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
- 論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(61ページ)を参照してください。

2. 本体のDVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ] をクリックする。

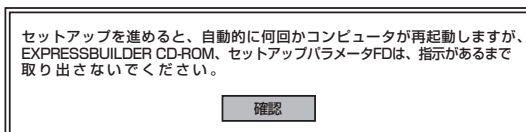
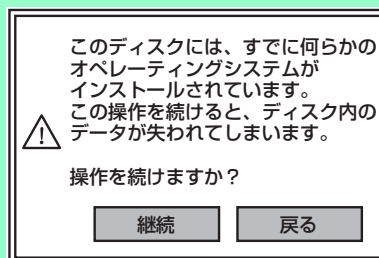
5. 「パラメータファイルを使用してセットアップを進めますか？」というメッセージが表示される。

パラメータファイルを使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」を選択してください。

6. 「お願い」が表示されますので、表示内容をよく読んでから「確認」をクリックする。

7. シームレスセットアップでの注意事項が表示される。

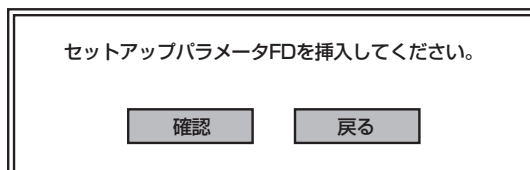
表示内容をよく読んでから「確認」をクリックしてください。

セットアップを進めると、自動的に何回かコンピュータが再起動しますが、EXPRESSBUILDER CD-ROM、セットアップパラメータFDは、指示があるまで取り出さないでください。

確認

チェック

ディスクになんらかのOSがインストールされている場合、インストールを続行するかを確認するメッセージが表示されます。
セットアップを続けるには「継続」を選択してください。

8. パラメータファイルを使用する場合はセットアップパラメータFDが要求されるので、フロッピーディスクをセットして「確認」を選択する。

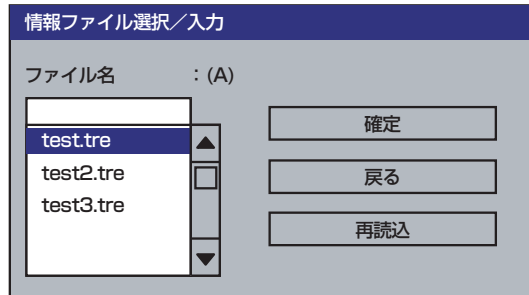
パラメータファイルを使用しない場合はこのメッセージは表示されません。手順9へ進んでください。

チェック

ここでセットしたフロッピーディスクは指示があるまで取り出さないでください。

[既存のパラメータファイルを使用する場合]

セットしたフロッピーディスク内のパラメータファイルの一覧が表示されます。

(1) インストールに使用するパラメータファイルを選択する。

確認のダイアログボックスが現れます。

(2) パラメータを確認する場合は［確認］を、確認せずにそのままインストールする場合は、［ｽｷｯﾌﾟ］をクリックする。

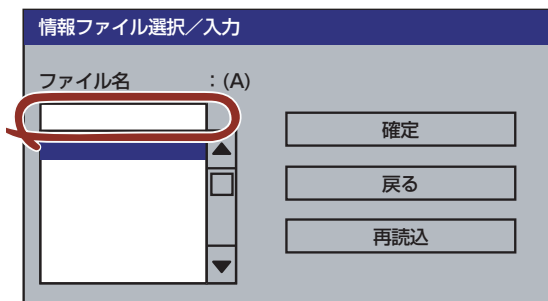
［確認］をクリック→手順9へ進む

［ｽｷｯﾌﾟ］をクリック→手順10へ進む

ディスクアレイコントローラが接続されていない場合は、手順10へ進んでください。手順10終了後、確認のダイアログボックスが現れます。
［確認］をクリック→手順12へ進む
［スキップ］をクリック→手順13へ進む

[空きフロッピーディスクを使用する場合]

(1) ［ファイル名:(A)］の下にあるボックスをクリックするか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

(2) ファイル名を入力する。

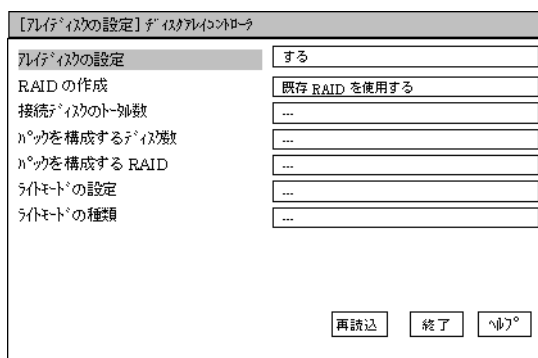
9. ディスクアレイコントローラのパラメータを設定する。

本装置のオンボードRAID機能、またはオプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、[アレイディスクの設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [終了] をクリックしてください。

設定が終了すると、自動的にRAIDの構築、保守用パーティションの作成および各種ユーティリティのインストールが実行されます。

[ｱﾚｲﾃﾞｨｽｸの設定] ﾃﾞｨｽｸｱﾚｲｺﾝﾄﾛｰﾗ

ｱﾚｲﾃﾞｨｽｸの設定	する
RAIDの作成	既存 RAID を使用する
接続ﾃﾞｨｽｸのﾄｰﾀﾙ数	---
ﾊﾟｯｸを構成するﾃﾞｨｽｸ数	---
ﾊﾟｯｸを構成する RAID	---
ﾗｲﾄﾓｰﾄﾞの設定	---
ﾗｲﾄﾓｰﾄﾞの種類	---

再読込　終了　ﾍﾙﾌﾟ

10. インストールするオペレーティングシステムを選択する。

リストボックスから [Windows] を選択します。

オペレーティングシステムインストールメニュー

Windows
その他
終了

11. 次に、[基本情報] 画面が表示されるので、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックする。(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

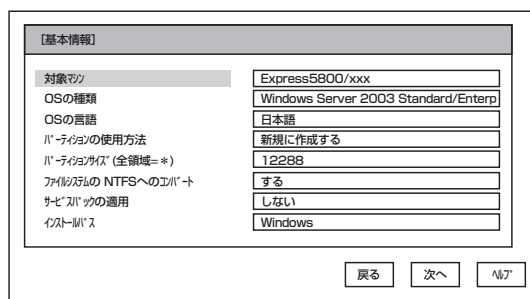
以降、画面に表示される [次へ]、[戻る]、[ﾍﾙﾌﾟ] をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>

[基本情報]

対象ﾏｼﾝ	Express5800/xxx
OSの種類	Windows Server 2003 Standard/Enterp
OSの言語	日本語
ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの使用方法	新規に作成する
ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝｻｲｽﾞ(全領域=＊)	12288
ﾌｧｲﾙｼｽﾃﾑの NTFSへのｺﾝﾊﾞｰﾄ	する
ｻｰﾋﾞｽﾊﾟｯｸの適用	しない
ｲﾝｽﾄｰﾙﾊﾟｽ	Windows

戻る　次へ　ﾍﾙﾌﾟ

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください（32ページ参照）。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション（保守用パーティションを除く）の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

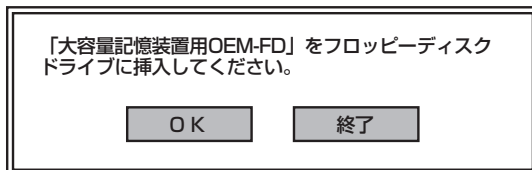
- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません（33ページ参照）。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外（保守領域を除く）にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows Server 2003をインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。

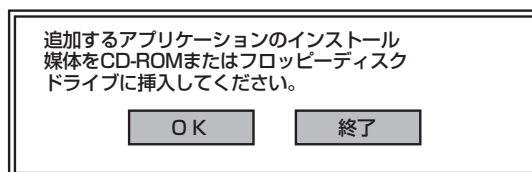
［コンピュータの役割］画面にある［終了］をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

12. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

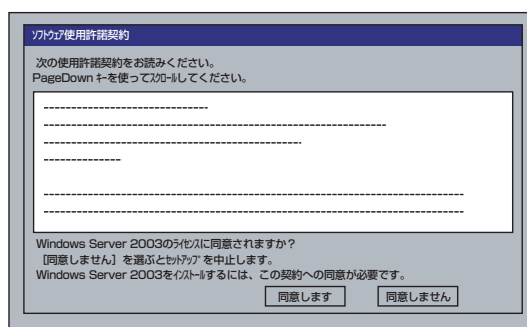
「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

［ＯＫ］　［終了］

13. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

14. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブから取り出す。この時セットアップパラメータFDを使用している場合は、フロッピーディスクドライブから取り出す。

15. Windows Server 2003 CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。

[ｿﾌﾄｳｪｱ使用許諾契約］画面が表示されます。

16. よく読んでから、同意する場合は、[同意します］をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません］をクリックするか、<F3>キーを押す。

同意しないと、セットアップは終了し、Windows Server 2003はインストールされません。

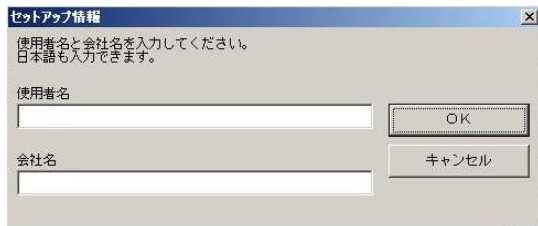
17. 基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

(1) メッセージに従ってWindows Server 2003 CD-ROMをDVD-ROMドライブから取り出す。

(2) メッセージに従ってWindows Server 2003 Service Pack 1 以降のCD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。

Windows Server 2003と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。

Service Pack 1 が含まれたWindows Server 2003 CD-ROM を使用してインストールをされた場合は、再度Service Pack 1を適用する必要はありません。

18. [セットアップ情報]画面が表示されるので、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[OK]をクリックする。

- インストール中にスクリーンセーバが起動する場合がありますが、手動でログオンしてください。
- 上記の画面が表示されていない場合は、システムを再起動してください。
  再起動後、シームレスセットアップが続行され、上記の画面が表示されます。

19. Microsoft Windows Server 2003 R2をインストールの場合は、インストール完了後Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition DISK 2またはMicrosoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition DISK 2をDVD-ROMドライブにセットする。

以降はメッセージに従って作業を進めてください。

インストール終了後、Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition DISK 2または Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition DISK 2をDVD-ROMドライブから取り出し、再起動してください。

20. PROSetをインストールする。

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、装置に耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。
PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

(1) 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットする。

(2) エクスプローラを起動する。

<標準のスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

(3) 「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥NS4¥PROSET¥2KXPWS03」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

(4) [次へ]をクリックする。

(5) [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。

(6) [すべて]を選択し、[次へ]をクリックする。

(7) [インストール]をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

(8) [完了]をクリックする。

(9) システムを再起動する。

以上で完了です。

21. ネットワークドライバのセットアップをする。

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレスの設定を行ってください。

[PROSetがインストールされていない場合]

(1) 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

2) [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

2) [ローカル接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

(2) [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。

(3) [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

(4) ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

[PROSetがインストールされている場合]

（1）「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

<標準のスタートメニューモードの手順>

1） スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

2） [プロパティ]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>

1） スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

2） [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

（2）[構成]をクリックする。

[Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

（3）[リンク]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。

（4）[Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続] からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

サービスの追加にて、[ネットワークモニタ] を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ] は、[ネットワークモニタ] をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

22. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、それぞれを確実にインストールする。
23. 49ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
24. 57ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB) とは複数のアダプタでグループを作り、サーバから送信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより､スループットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は、以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開く。「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。

   チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し､「セカンダリの設定(S)」をクリックしてください。
   両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

   実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。AFT/ALBのセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。アダプタフォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは､同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一LAN（同一セグメント）上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は､スイッチングハブにのみ接続できます。マザーボードまたはオプションのネットワークボードを交換する場合、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード（N8104-88/115）を使用する場合は、下記のインストール方法に従って、ドライバのインストールをしてください。

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/100～]または[Intel(R) PRO/1000～]をダブルクリックする。

   [Intel(R) PRO/100～]または[Intel(R) PRO/1000～]ダイアログボックスが表示されます。

[？その他のデバイス]→[？イーサネットコントローラ]がある場合は[？イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。

   [ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする（詳細）]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

   「N8104-88」の場合、
   [<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥NS4¥PRO100¥WS03XP2K]
   「N8104-115」のボード名ドライバの場合、
   [<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥NS4¥PRO1000¥WS03XP2K]

   と入力し、[次へ]をクリックする。

   ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。
6. [完了]をクリックする。

   以上で完了です。

グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

<再インストール手順>

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットし、スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
2. 「<DVD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥DOTNET¥VIDEO」ディレクトリ内の[SETUP.EXE] アイコンをダブルクリックする。

3. メッセージに従って、作業を進める。

   ドライバのインストールが開始されます。

   途中、「ディジタル署名が見つかりませんでした。...」とのメッセージが表示される場合は、[はい]をクリックしインストールを続けてください。

4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをDVD-ROMドライブから取り出し、画面の指示に従ってシステムを再起動する。

   以上で完了です。

ディスクアレイコントローラ(N8103-80)を追加接続する場合

<Windows Server 2003にてService Pack1を適用していないシステムをご使用の場合>

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-80)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。
以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]－[管理ツール]－[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャでその他のデバイスとして登録されているRAIDコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。
6. フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

<Windows Server 2003にてService Pack1を適用しているシステムまたはWindows Server 2003 R2をご使用の場合>

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-80)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。
以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]－[管理ツール]－[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. SCSIとRAIDコントローラの「LSI Logic Megaraid SCSI 320-1」をダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。

4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。
6. フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

Boot.iniファイルで使用可能なスイッチオプションについて

Boot.iniファイルを編集することで、様々なスイッチオプションを使用することができます。
使用可能なオプションについては、以下を参照してください。

- **サポート技術情報-KB833721**
  Windows XPおよびWindows Server 2003のBoot.iniファイルで使用可能なスイッチオプション

  4GBを超えるメモリを搭載できる装置では /PAE オプションの設定を行うことで 4GBを超えるメモリを使用できるようになります。
  /PAE オプションは、サポートされている製品が限定されています。
  以下のマイクロソフトサポート技術情報を参照して確認してください。

- **サポート技術情報-KB291988**
  4GB RAMチューニング機能と物理アドレス拡張のスイッチの説明

  以下に編集例を示します。

  1. 「スタート」メニューから[設定] をポイントして、[コントロール パネル]をクリックします。
  2. 「コントロール パネル」から、[システム]アイコンをダブルクリックします。

     「システムのプロパティ」画面が表示されます。
  3. [詳細設定]タブから「起動と回復」にある[設定]をクリックします。
  4. 「起動と回復」画面にある「起動システム」の[編集]をクリックし、「Boot.ini」を開きます。
  5. 「Boot.ini」ファイルの[operating systems]に“/PAE”を追加し、上書き保存してください。

     <Boot.ini ファイルの例>
     [boot loader]
     timeout=30
     default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS
     [operating systems]
     multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003" /
     fastdetect
     multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003, PAE" /

fastdetect /PAE
C:¥CMDCONS¥BOOTSECT.DAT="Microsoft Windows 回復コンソール" /
cmdcons

以上でBoot.iniへの編集は終了です。

「起動/回復」画面にある「既定のオペレーティングシステム」で選択したエントリから自動的に起動するように設定することができます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

メモリダンプの注意

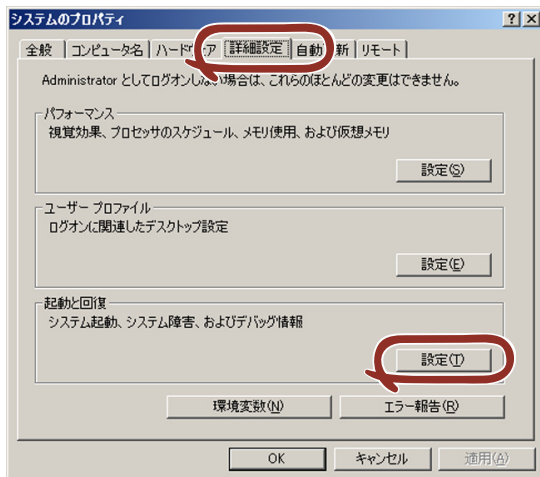
- **メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。**
- **ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。**

次の手順に従って設定します。

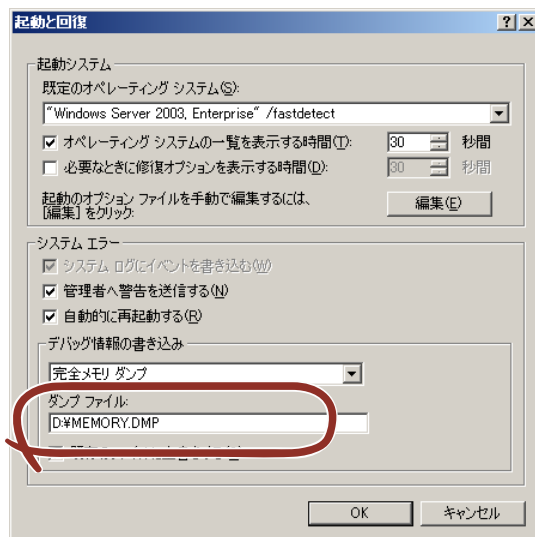
1. **スタートメニューから［コントロールパネル］を選び、［システム］をクリックする。**

   ［システムのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。

2. **［詳細設定］タブをクリックする。**

3. ［起動と回復］ボックスの［設定］をクリックする。

4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

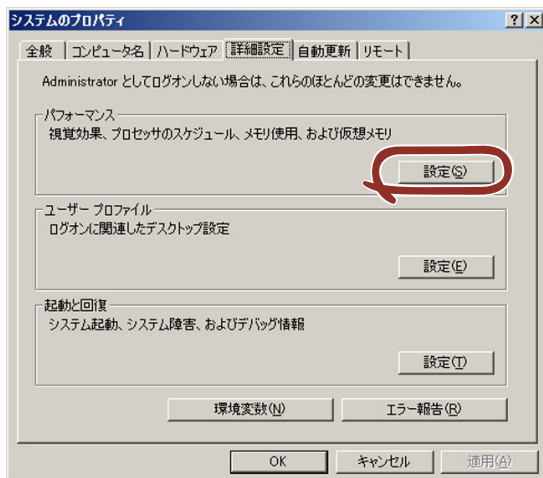
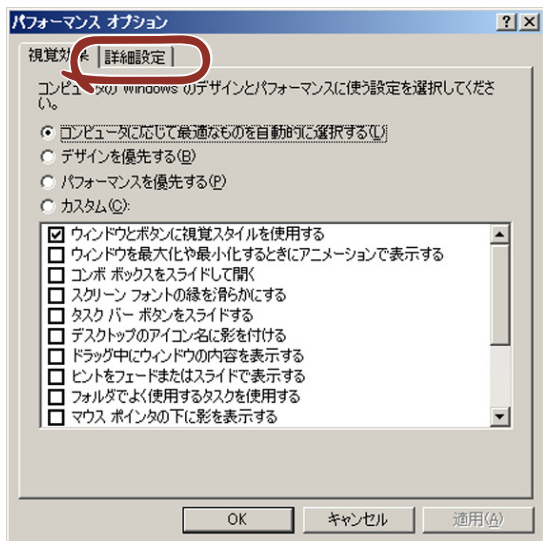
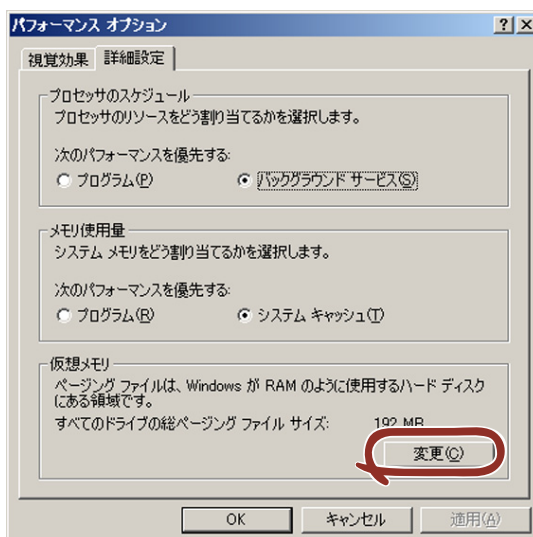
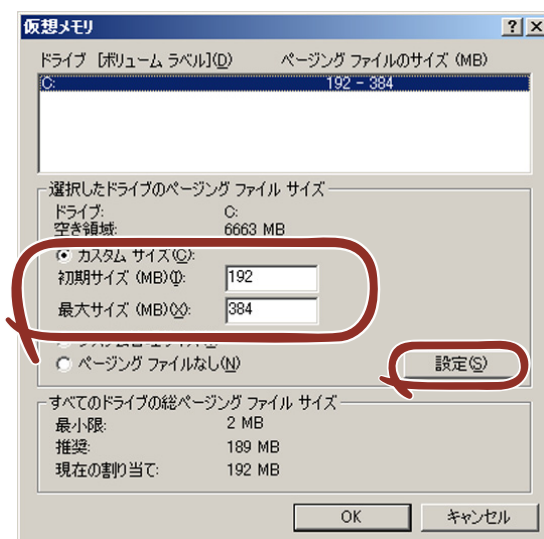
D:¥MEMORY.DMP

Windows Server 2003 x64 Editionsの場合

- デバッグ情報の書き込みは［完全メモリダンプ］を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、［完全メモリダンプ］を指定することはできません（メニューに表示されません)。その場合は、［カーネルメモリダンプ］を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを［カーネルメモリダンプ］に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

Windows Server 2003の場合

- デバッグ情報の書き込みは［完全メモリダンプ］を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、［完全メモリダンプ］を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、［カーネルメモリダンプ］を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを［カーネルメモリダンプ］に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. ［パフォーマンス］ボックスの［設定］をクリックする。

   ［パフォーマンスオプション］ウィンドウが表示されます。

6. ［パフォーマンスオプション］ウィンドウの［詳細設定］タブをクリックする。

7. ［仮想メモリ］ボックスの［変更］をクリックする。

8. ［選択したドライブのページングファイルサイズ］ボックスの［初期サイズ］を推奨値以上に変更し、［設定］をクリックする。

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。
  ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。
  また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(32ページ)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

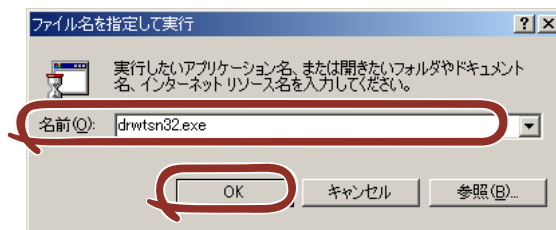
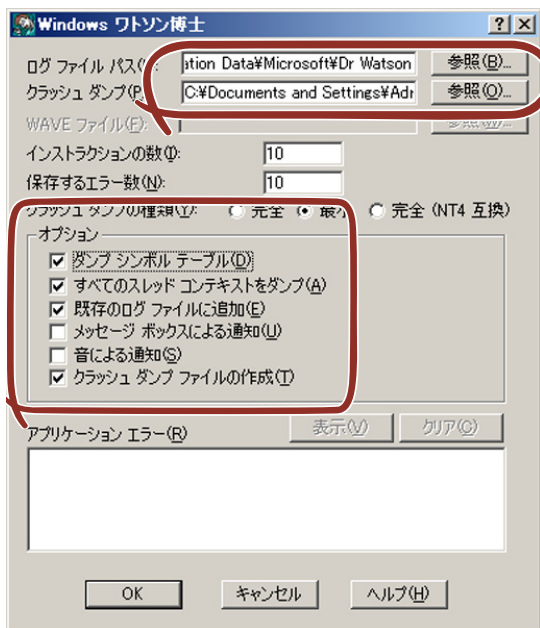
9. ［OK］をクリックする。

   設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの［ファイル名を指定して実行］をクリックする。
2. ［名前］ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、［OK］をクリックする。

   ［Windowsワトソン博士］ダイアログボックスが表示されます。

3. ［ログファイルパス］ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
   - ダンプシンボルテーブル
   - すべてのスレッドコンテキストをダンプ
   - 既存のログファイルに追加
   - クラッシュダンプファイルの作成

   それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから [設定] をポイントし、[コントロールパネル] をクリックする。

   [コントロールパネル] ダイアログボックスが表示されます。

2. [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックする。

   [プログラムの追加と削除] ダイアログボックスが表示されます。

3. [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックする。

   [Windows コンポーネント ウィザード] ダイアログボックスが表示されます。

4. コンポーネントの [管理とモニタ ツール] チェックボックスをオンにして [次へ] をクリックする。
5. ディスクの挿入を求めるメッセージが表示された場合は、Windows Server 2003 CD-ROMをDVD-ROMドライブにセットして [OK] をクリックする。
6. [Windows コンポーネント ウィザード] ダイアログボックスの [完了] をクリックする。
7. [プログラムの追加と削除] ダイアログボックスの [閉じる] をクリックする。
8. [コントロールパネル] ダイアログボックスを閉じる。

ネットワークモニタは、スタートメニューから [プログラム] → [管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ] をクリックすることにより、起動することができます。

管理ユーティリティのインストール

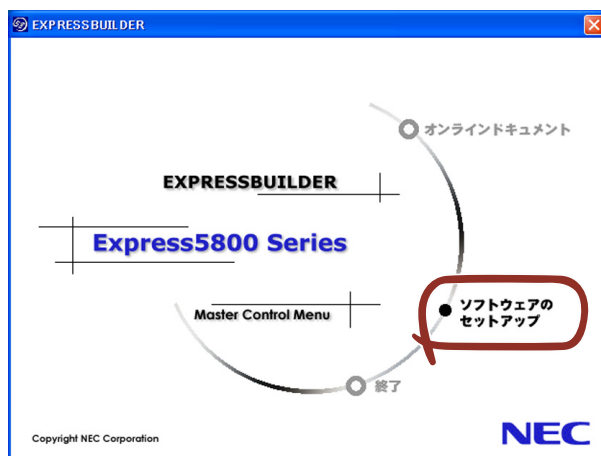
添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。ESMPRO/ServerAgentは、シームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。
［スタート］メニューの［プログラム］やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。シームレスセットアップの設定でインストールしなかった場合は、第3編の「ソフトウェア編」を参照して個別にインストールしてください。

ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

システムのアップデート（サービスパックの適用）

システムのアップデートは、次のような場合に行います。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合)
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合
  (サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。)

管理者権限のあるアカウント（Administratorなど）で、システムにログインした後、本体のDVD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットしてください。
表示された画面「マスターコントロールメニュー」の［ソフトウェアのセットアップ］を左クリックし、メニューから［システムのアップデート］をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。
システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体装置のDVD-ROMドライブにセットして、再起動する。

   EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. ［ツール］ー［オフライン保守ユーティリティ］を選択する。
4. ［システム情報の管理］から［退避］を選択する。

   以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどをする場合は、次の手順でセットアップしてください。

- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているオプションボードについては「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」（15ページ）を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。

本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

   RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。
4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。
   - アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う] をチェックする

コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

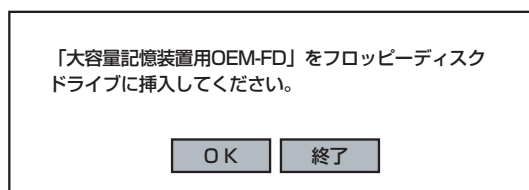
   - [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする

このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライバ]をコピーする。

大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。

「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

[ＯＫ] [終了]

マニュアルセットアップ

マニュアルセットアップについて説明します。

Windows Server 2003 x64 Editions の場合

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。

マニュアルセットアップでWindows Server 2003 x64 Editionsをインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition / Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Editionインストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

Windows Server 2003 の場合

オペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。
シームレスセットアップを使わずにWindows Server 2003をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、「サポートディスク」を作成しておいてください。

オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

サポートディスクとは

- **Windows Server 2003 x64 Editions の場合**

「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。作成方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition / Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。

- **Windows Server 2003 の場合**

シームレスセットアップを使わずに再セットアップするときの手順「マニュアルセットアップ」では、「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるサポートディスクが必要です。

「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」には、Windows Server 2003のインストールで必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。マニュアルセットアップを始める前に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を用意してください。

1. **3.5インチフロッピーディスクを1枚用意する。**
2. **周辺装置、本体の順に電源をONにする。**
3. **本体のDVD-ROMドライブに添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。**
4. **CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。**

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。
5. **［ツールメニュー］から［サポートディスクの作成］を選択する。**
6. **［サポートディスク作成メニュー］から［Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER］を選択する。**
7. **画面の指示に従ってフロッピーディスクをセットする。**

   「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」が作成されます。

   作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」はライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

Windows(Windows 95以降、Windows NT 4.0以降)が動作するコンピュータをお持ちの場合は、Windows上で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットすると起動する「マスターコントロールメニュー」から Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDERを作成することもできます。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。
2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

> 次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。
>
> 上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。

システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

   以上で完了です。

セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. [スタートメニュー]から[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。
5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。

7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. [コンピュータの管理]を終了する。

   以上で完了です。